



2013 河津町勢要覧
KAWAZU
TOWN PROFILE



Contents

- 3 花でつづる河津
- 7 河津のひと
- 11 山・海・湯
- 14 河津 伝統の祭り
- 15 河津の歴史
- 19 健康(医療・福祉)
- 21 教育(青少年・生涯学習)
- 23 産業(産業振興)
- 27 生活(都市基盤・環境)
- 29 行政・議会
- 30 資料編
- 38 姉妹／友好都市

河津町は、伊豆半島の南東に位置し、天城山系の豊かな森林を源とする、清流「河津川」が相模湾にそそぐ自然豊かな町です。近年では、早咲きの桜で町の木でもある「河津桜」が全国に知られるようになり、二月から三月にかけて開催される「河津桜まつり」は毎年多くの花見客でにぎわいます。

平成二十三年度から「河津町第四次総合計画」がスタートし、「人と地域、自然と文化、夢あふれるまち 河津」を将来像に掲げ、自然や人のふれあいを大切にしながらまちづくりに取り組んでいます。

この要覧は、これまでの河津町の歩みと現在の姿、そして、魅力あるまちづくりに積極的に取り組む町民の姿を紹介しています。ぜひ多くの方々にご覧いただき、河津町への理解と愛着への一助にさせていただければ幸いです。



平成二十五年九月
河津町長 相馬宏行



人と地域、自然と文化

“夢あふれるまち河津”

—河津町—



河津の地でずっと昔から様々な暮らしを営んできた私たちの先人たち。彼らは今や河津のシンボルとして知られる「花」に、私達と同じかそれ以上の愛情と情熱を注いできました。

日本の心を象徴する桜。その中でももっとも早く見事な爛漫の光景を見せてくれる桜の二つ「河津桜」も、河津の自然と風土から生まれた小さな奇跡にその目を留めた一人の偉大な先人の繊細さと大いなる汗の賜です。そんな数々の人の想いが紡がれ、今日、色鮮やかに咲き誇っているのが、河津の花たち。

私たちがその美しさに酔い、高い香りにつとりとするその心地よさの影には、いつもその花を咲かせようとした数知れない人々の想いが満ちあふれています。人々の心を動かすのは、人。四季ごとの小さな

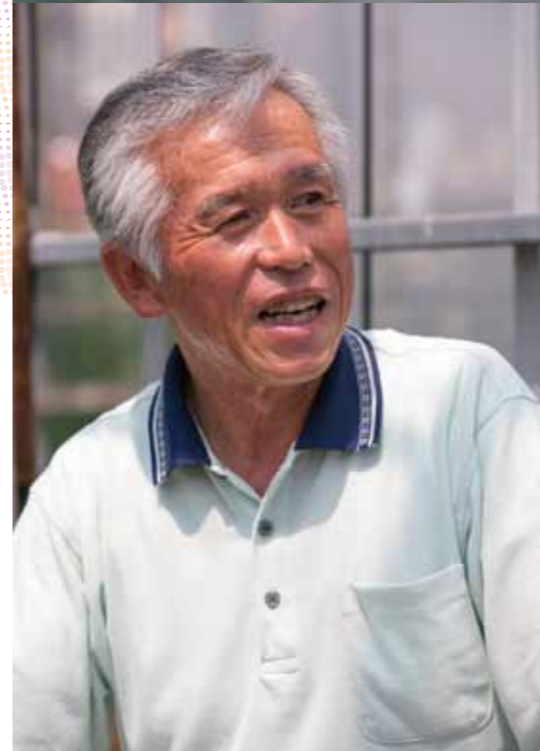
季節を告げ、人を潤わせる季節の彩り。
河津は花のまち。そして、よろこびのまち。

色とりどりの花々が
季節ごとの暮らしを彩る河津



Flower Story

花でつづる
河津



な花々が、私達をこれほどまでに感動させてくれるのは、そこにたくさん「思い」が息づいているからなのかもしれません。

「花のまち・河津」。それは町民自身の思いに支えられて創られるもの。町のあちこちに花壇をつくったり街路に花のコンテナを並べて飾ったりするに留まらず、人の暮らしの中に花や緑が自然に溶け込んでいます。人と人との間に開わり合いながら取り組むまちづくりのひとつの姿でもあります。

花や緑に囲まれた豊かな生活環境を整えることを通じて、地域の「コミュニティ」を醸成させ、生き生きとしたまちを形成していく。という考えに基づいています。

そんな理念のもと、地域の花壇の手入れを主に活動するかわづ花の会は、会員への花苗配布をはじめ、会員間の交流事業も活発に行っています。さらには幼稚園などでの交流イベントなど、花をつなぐ和を広げていくための多彩な活動も展開しています。

花のまちづくりは、住民の誰もが参加できる活動を楽しみながら、一人一人が地域社会に対しての誇りと責任を醸成していくという、河津町民の高い意識づくりでもあるのです。

住む人、訪れる人にも
やさしい笑顔があふれています

河津の農産物出荷量のおよそ三分の一を占めるという、花卉栽培。そして町のあちこちに咲き誇り、多くの観光客の目を惹きつけてやまない、花。

まさに河津にとって「花」は、なくてはならない大切な資源であり、また河津の気候や土地柄、いわゆる「河津らしさ」を、言葉以上に確かに人の心へと伝えてくれるかけがえのない存在でもあります。



かわづ花菖蒲園

そんな風に河津の町中に咲き誇る花々は、町が一体となってお客様を迎えるための歓迎の想いの表れ。まちを数多くの花で彩ることは、河津町を訪れてくださる多くの方々を快く迎え入れるための、いわば町全体での「おもてなし」の心なのです。

花で彩られた美しい町をみて、感動していただくことはもちろん、そんな花々を話題として見知らぬ同士でも自然に会話と笑顔が弾けるはず。

まさに、花は人をつなぎ、人は花でつながっていく…。花を通じたそんな「コミュニケーション」の和が、人の交流を生み、さらに人が行き交うことで地域全体に生き生きとした活力が生まれてくるのです。



Flower Story



かわづカーネーション見本園

伊豆・河津にいなから、幾何学的にデザインされた美しいフランス庭園の趣を堪能でき噴水のある庭園や最大の見所であるロースカーテンなどの様々なエリアで、約二〇〇種・六〇〇本余りのバラたちの競演を楽しみむことができます。

かわづ花苧蒲園

二五〇〇㎡の広い敷地に六〇種・二二〇〇株の花苧蒲を植栽する花苧蒲の楽園「かわづ花苧蒲園」。

河津の花苧蒲は、町内の峰温泉で阿部市右衛門氏が温泉熱を利用して栽培したのがきっかけで町の名産となり、その後、河津町の花にも指定されました。現在では八〇年にも及ぶ長い歴史をもつた河津の特産品として「早咲きの花苧蒲」が栽培されており、首都圏に向けて出荷され、河津の花苧蒲の特長である三弁の大きめの花弁と、その独特の優雅さが高い人気を呼んでいます。



河津バガテル公園

います。この花苧蒲園には、在来種から珍しい品種までさまざまな花苧蒲が咲き誇り、その美しさと壮大さで、訪れる人々を魅了させています。

かわづカーネーション見本園

主にカーネーションの新品種を試験栽培し、新品種の正確な特性などの情報を生産者に提供することを目的に開設されたのが「かわづカーネーション見本園」です。これと同時に少農業化への研究や土壌研究なども行っています。

その目的からレジャーとしての「花狩り」ではなく、自然にふれあう観光体験であるグリーンツーリズムの一環として「カーネーション引き抜き体験」を行うことが可能です。

約一五〇〇㎡の広大な温室には、毎年約三五〇品種・約二〇〇〇株のカーネーションが栽培されています。一般棟の温室には町内生産用の主な品種である二三品種約五八〇〇株が栽培され、また特別棟では試験栽培されている三五〇品種約七五〇〇株もの珍しいカーネーションを鑑賞することができます。

こうしたカーネーションは、十二月中旬のシーズン開園に向けて晩春からその準備が進められます。五月中旬から六月中旬にかけての土づくりから準備がスタート。七月にはその年の苗を植え、盛夏を迎える前には小さな芽が姿を現します。

最も早く見頃となる河津桜の名が知らしめたもの

河津町の名を一躍全国に轟かせたのが、河津桜。早咲きで知られるこの桜はオシマザ



河津バガテル公園をはじめ、全国に誇れる花の楽園たち

河津桜、バラ、花苧蒲、そしてカーネーション。おだやかな気候と美しい水、そして温泉の恵みあふれる河津町は、日本に誇る「花のまち」。観光の名所としてはもちろん、農業技術の向上や品種改良など産業的側面に貢献する先駆的な試験施設、そして多くの方が自然と触れ合える農村体験の貴重な資源としてもその大きな役割を果たしています。住まう人々を癒し、訪れる人々をやさしく迎える気高い花の香りは、河津町の何よりの自慢。そんな数々の花の施設をご紹介します。

河津バガテル公園

伊豆急行河津駅の北西の丘にある「河津バガテル公園」。平成十三年に開園した広大なこの公園は、パリ・バガテル公園の唯一の姉妹園として知られ、パリ・バガテル公園を象徴するオランジェリーやローズガーデンにあるキオスクなどが再現されています。



河津桜並木

クラ系とカンヒザクラ系の自然交雑種と言われています。昭和三十年に飯田勝美氏が河津川で偶然原木を発見したことからその存在がクローズアップされました。その後、この河津桜は町の木として指定されるとともに、町内各所に植栽されることになりました。

樹齢約六〇年とされる原木も、もちろん今も大切に保護されています。

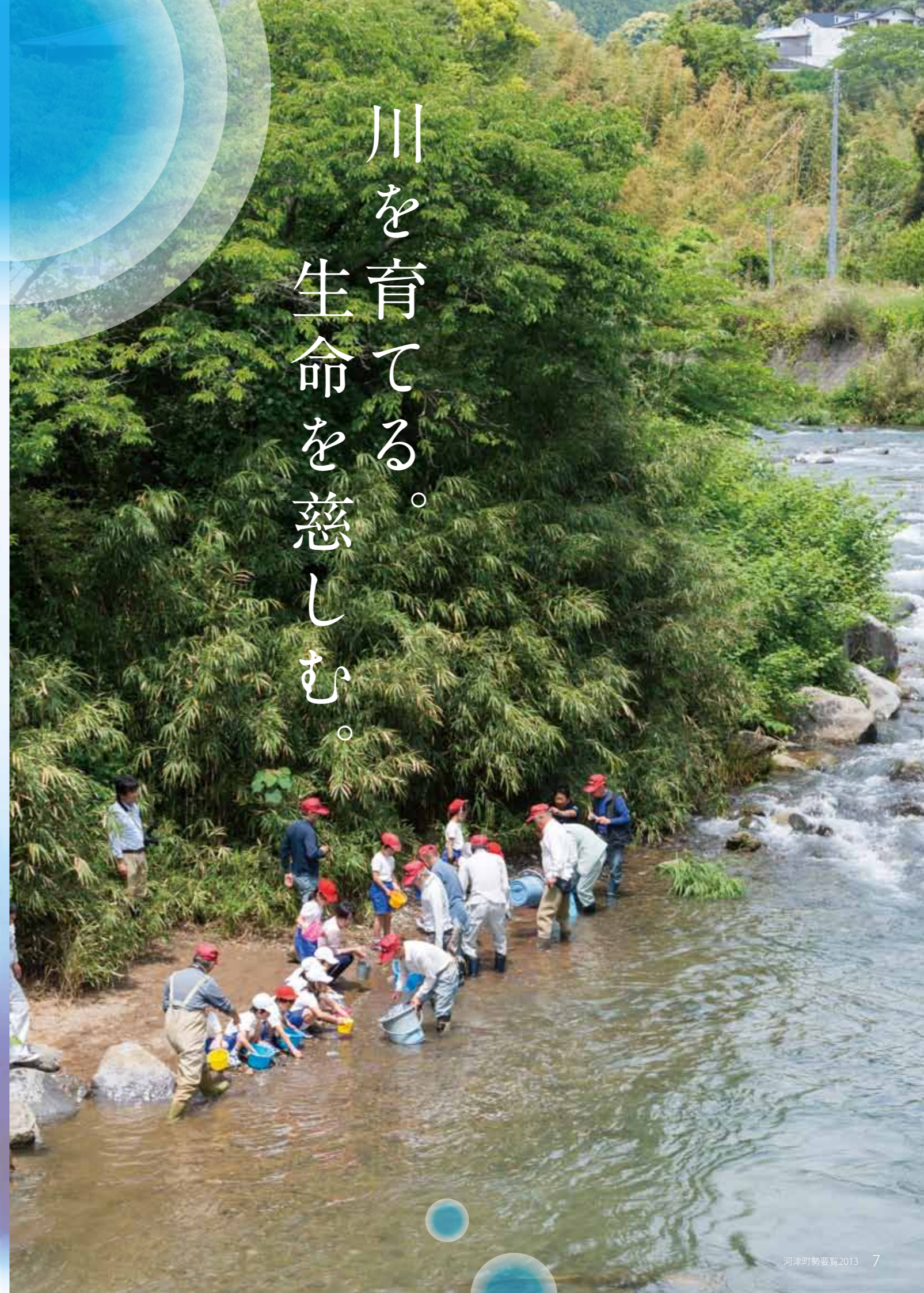
町では平成三年より、毎年二月上旬から三月上旬にかけて「河津桜まつり」を開催しています。

河口から河津川にそって約四kmにわたって整備された「河津桜並木」を楽しむために、町民八〇〇名ほどの町に二〇〇万人の大勢の観光客が集まるようになりました。

巨額の資金を投じての宣伝に頼らず、様々なニュースや口コミによってその輪が広がり、多くの人々を動かしたことで、この成功例は地方の町興しや観光資源開発の代表例にも数えられています。

日中はもちろん、夜にはライトアップも催され、春まだ浅い夜空に爛漫と咲き乱れる濃いピンクの花々が、幻想的な光景を繰り広げています。

川を育てる。 生命を慈しむ。



澄みきったこの水と川は
生命が息づく、河津の宝もの

人が豊かに生きるためには、
失ってはいけないものがある

河津の ひと

The person of
KAWAZU

このまちの未来を担う子どもたちに、
郷土の素晴らしさを誇ってほしい。



天城連山を源とする本谷川と天城峠の西斜面から流れる狭ノ入川は、河津七滝のひとつである出合滝で合流し、河津川となった後、河津平野を潤わせてやがて相模灘に注ぎます。水源から河口までの全流域がすべて河津町内に属するこの川は、河津町の水の恵みのシンボル。

最上流では、澄み切った水にしか生育できない天城名物のわさびを育み、その渓流はアマコ釣りのスポットとして関東一円に名を轟かせ、さらにアマコ釣りのメッカとしても広くその存在を知られています。

伊豆の名川のひとつとして、つねに水質の良い美しい流れを誇る河津川は、もちろん環境基準値を達成。貴重な水源としても町の産業や暮らしに大きく役立っています。

河津川非出資漁業協同組合は昭和二十四年に創立されて以降、この河津川の美しさはもちろん、多様な生き物が棲める豊かな環境を保護・維持するための活動に積極的に取り組んでいます。

その活動は多岐にわたっており、アマコや稚アユの放流と釣り人の入漁管理「スガニ」とも呼ばれる地元名産のモクスガニの放流事業にまで及んでいます。

河津川をこよなく愛する水の守人。それが今回お話を伺った河津川非出資漁業協同組合・副会長の島崎光夫さんです。

「川は地域みんなの宝もの。だからこそ自分たちで守るだけでなく、地域の多くの人々にもっと親しんでもらい、みんなで守る気持ちを育ててほしい。」島崎さんはそう話します。

河津川では夏になると、高さ9mの峰橋から、子どもたちが川へ次々と飛び込む姿が今でも良く見かけられます。今も変わらず、自然に水や川に親しんでいる子どもたちがいる一方で、自然から切り離されてしまっている子どもたちもいるのも事実。組合では以前から子どもたちを対象に、アマコ釣りやアユの放流体験、つかみ取りなど多彩なイベントを開催し、子どもたちと川の距離を近づける努力をしているそうです。

「渓流のアマコ釣りは比較的若い方が多いのですが、アユ釣りはどうしても年配向けのイメージが強く、若い方が少ないんですね。ですから小学生などにアユの放流や、つかみ取り大会などを通じて、今のうちから川を身近に感じてもらいたいんです」と島崎さん。将来的な展望からも、子どもの頃に川や水に親しむことが重要だと話します。

テレビや写真ではなく、自分の手と体で河津の川で遊ぶという体験や記憶は、人間形成の上でもそしていつまでも河津の水資源を守っていくためにも貴重な実践教育のひとつ。しかも子どもたちがこつこつと心をこから楽しんでくれたら、それに優るものはありません。

「河津町にはこの河津川の他にも、温泉や海、山や滝など、本当に多彩な自然の魅力が溢れています。町に住んでいる人にももちろんのこと、ここを訪れてくれる人にも、どれかひとつだけではなく、様々な河津の魅力に触れてほしいですね。」

川の守人のそんな言葉には、水を通して自然の大きなサイクルを見守りつづけてきた重みを感じられます。

河津川非出資漁業協同組合 島崎光夫さん



河津川非出資漁業協同組合は、昭和24年の創立。その当初から、「地域の子どもたちに川に親しんでもらうこと」と「川の美化のための仕組みや地域の働きかけ」を目的とし、地道な川の保全活動の他、様々な催しなども開催しています。

■お問い合わせ:河津川非出資漁業協同組合
0558-34-0316



アユの放流体験

河津の素晴らしさを、 心で伝えていきたい。

河津の ひと

The person of
KAWAZU

あざやかな新緑の中、
趣深い天城路を往く。



旧天城トンネル

自然と歴史、人の営み。 その融合が河津の「宝」。

自然、歴史、レジャーと、河津町には数多くの観光資源があります。観光客の皆様それぞれのスポットを案内し、河津の本当の良さを伝え続けているのが「かわづふるさと案内人会」のメンバー。

現在十七名の会員が在籍していますが、驚くのはその半数が地元河津出身者でなく、定年後に移住された方など、町外から河津に移ってこられた方だということ。地元で生まれ育った人と同じがそれ以上に、河津の本当の良さを熟知し、多くの方に伝えようと常日頃から尽力されています。

河津町の素晴らしいスポットをご案内するためには、何よりもまず自分自身が河津のことを良く知ることが必要です。地元出身のメンバーも「何十年もここに住んでいながら、意外に知らないことが多いことに気づかされるばかり。案内人としてお客様に喜んでいただくために、町のことを一から勉強しなおしました」と話します。

来町される方からのニーズが最も多いのは、河津桜まつりのシーズン。河津桜の名木を中心に、町内の観光名所を巡る「河津桜コース」が一番人気なのだそう。その他、初夏や秋の観光シーズンにもやはり、様々なコースの申込が多くなるそうです。

「かわづふるさと案内人会」では、歴史ある温泉地の中にある数々の寺院や大噴湯公園をめぐり歩く「峰温泉コース」や、伊豆の踊子の舞台となった天城路の渓谷や滝などを歩く「踊子歩道コース」など、河津の多くの資源をテーマごとに分類した、趣向の異なる様々なコースを用意しています。

人が人でいられる場所として。 いつも河津に帰ってきてほしい。

案内人会の皆さんにメンバーになられたきっかけをお尋ねすると「せつかくだから、退職後も地域のために楽しみながら過ごしていきたい」という想いから参加されたという方がほとんど。

「河津町にある数多くの観光資源を、短い時間ですべて案内しつくすことはできないけれど、河津を訪れた方にこの地の素晴らしさをできる限り味わっていただき、河津に来てよかったと思っただけでいいから、これからも頑張りたい」と語ります。

車とビルそして人の波の中で、知らず知らずにも心も疲れてしまいがちな都会。その喧噪を離れて奥深い山や大海原といった河津の大自然に触れ、また悠久の歴史や温泉、人のぬくもりを感じることで、多くの方が自分自身を取り戻しリフレッシュできるひとときをお届けしたい。皆さんの表情や言葉からは、つねにそんな温かな気持ち伝わってきます。

最後に皆さんに、案内人として心がけていることはありますか？とお尋ねすると、「とにかく自分たちも楽しむこと。せつかく町内の様々なところを案内するのだから、自分たちも楽しみながら案内したいし、また私たちが楽しみながら案内しなければ、お客様にも河津の楽しさや感動も伝わっていかないと思っています」といふ答えが帰ってきました。

自分らしさ、人らしさを取り戻す場所、河津。多くの方に河津をもっと知って欲しいと願う案内人会の皆さんからは、あふれ出るような郷土愛がひしひしと伝わってきました。



板垣秀実さん

杉江喜代美さん

高野芳邦さん

かわづ ふるさと案内人会



定年を迎えた60歳以上の方を主体に現メンバー17名で活動中。「町への恩返しをしたい」、「河津の良さをもっと多くの方に知って欲しい」など参加のきっかけは様々ですが、河津町への愛着の深さは、みな同じ。まだ知られていない河津の良さを、今日も多くの方々に伝えています。

■お問い合わせ：河津町観光協会 0558-32-0290



海

SEA

雄大に広がる大海原の、限らない青の美しさ。それは河津に暮らす町民の誇りであり、また大切な心の拠りどころでもあります。人が思わず心を惹かれる白砂青松の美しさとともに、河津町には海がもたらす豊かさや躍動感があふれています。



河津浜海岸



今井浜海岸

青い海
日本の海
息づく

原に、
美と景観が



今井浜海岸



天城の深い
季節の息吹

河津踊子滝見橋



初景滝

文豪川端康成の名著「伊豆の踊子」。その舞台となった山深い天城路はまた、河津の町を潤す名水の故郷です。風の音、鳥の声、川のせせらぎだけが響く、静かな河津の山々はまさに別世界の趣き。ここに生きる人を惹かせ、旅人にはほろりと息をつかせるその大自然の美しさは、まさに生命の源そのものです。

懐に、
を観る。



旧天城トンネル



わさび田

山

MOUNTAIN

湯

SPA

ほっと心まで癒す、その温もりに集う。

大地を母とし、絶え間なく湧き出る恵みの湯。その温もりは人を温め、その心を桃源郷へと誘います。風情豊かな河津町の、彩り豊かな七つの温泉郷。それぞれに異なる趣と表情を見せながら、今日も多くの人々を旅情と心静かな安らぎに誘ってやみません。



踊り子温泉会館



伊豆見高入谷高原温泉



河津三郎の足湯処



峰温泉大噴湯公園

河津伝統の祭り

人の思いが舞いとなり、その情熱が、花と咲く。

縄文時代から、人の豊かな営みが花開いていた河津。いにしえより続く伝統芸能、そして数々の祭りは、その歴史を物語る、「証」です

見高神社 三番叟



天平五年(七三三)に創建された見高神社では、毎年、秋の大祭に伝統芸能として町の伝承にちなんだ「三番叟」が上演されています。この三番叟は、江戸時代に名を馳せた見高村出身の名歌舞伎役者「四代目市川小團次」の元を訪れた村の青年たちが、市川小團次から伝授されたもので、村に帰ってさっそく演じたことを起源とし、今まで絶えることなく伝えられています。

また廻り舞台の神楽殿も貴重な文化財となっています。

河津浜 天王神社祭典

正徳三年(七三三)の創建と伝えられる由緒ある天王神社(須佐乃男神社)で、七月中旬に行われる「天王さん」の夏祭り。ホラ貝を先頭に、神輿や山車、お神楽で氏子廻りをし、河津浜では神輿もろとも海の中に入って行く豪快で勇壮な姿で知られます。

この祭りも、土地に代々伝わるお役番と厄年の若衆を中心に長く伝えられる貴重な民俗行事です。



大鍋・子守神社 秋の祭典

安産・子宝の神様として知られる子守(ねのかみ)神社は、天正十二年(一五八四)の創建。毎年十月十五日の秋祭りには、約二九〇年もの歴史を持ち、県の無形民俗文化財にも指定されている「お神楽」が、保存会によって奉納されます。奉納舞と道化舞それぞれのお面をつけ、大地を強く踏んで邪気を払う力強い舞いが大きな特徴です。